

あなたの真の名前はブラフマン

怒りを持つ人は、どのような試みにも成功することはなく
罪を犯し、だれからも嘲笑されるだろう
家族にも見捨てられるだろう

(テルグ語の詩)

愛は神であり、神は愛です。愛を持たない人はいません。今日の世界に蔓延する不和、争い、仲たがいは、おもに人の心^{ハート}に愛が欠けているためです。

真の自分を知らなさい

世界は、悲しみ、苦難、困難に満ちているということを、多くの人々がさまざまに語ります。しかし、実際には、この種のものは存在しません。存在しているとされているものは、人の妄想に他なりません。実は、この世に困難というものは存在せず、どこにも何の不安も見られません。どこであれ目を向けるところには、平安！ 平安！ 平安のみが、存在しています。心^{ハート}に平安があるとき、あらゆるところに平安を見るでしょう。これに対して、もし心^{ハート}に平安がなければ、あらゆるところで平安の欠如を見るでしょう。平安の欠如、悲しみ、不安はすべて、自分自身の反応であり、反映であり、反響です。これらはすべて自分自身が作ったものであり、一切実在していません。つまり、反応と反射と反響は、自分自身の多種の妄想によって生じるのです。だれかに「あなたの名前は何ですか？」と尋ねれば、その人は両親から与えられた名前を言うでしょう。(ここでスワミは一人の青年に名前をお尋ねになり、その青年は「ヴィカス」と答えました)。真理を言うなら、ヴィカスというのはこの青年の名前ではありません。けれども、だれのところに行ってもこの質問をしても、皆同じように答えるでしょう。もし神に同じ質問をすれば、神は「アハム ブラフマン (ハ) ースミ」(私はブラフマンである)と答えるでしょう。私たちは皆、「アハム ブラフマン (ハ) ースミ、アハム ブラフマン (ハ) ースミ」と言って神と同じ返答をすべきです。私たちにこれ以外の名前は 없습니다。私たちが持っている名前は、両親から与えられたものであり、生まれながらにその名前を持っているものではありません。あなたの真の名前はブラフマン〔絶対実在〕です。この真理を理解できない者は、決して人生で真の幸福を体験することはできません。

愛の化身である皆さん！ 愛はブラフマンの別名です。愛と呼んでも、アートマと呼んでも、プレーマと呼んでも、アハムと呼んでも、ブラフマンと呼んでも、どれも同じ意味です。この世に愛以外のものは見られません。ところが、人は愛の真の意味を知りません。人は愛を世俗的で肉体的な関係と同一視しています。しかし、肉体的な関係は真の愛を伴いません。真の愛とは、つねに真理なるものです。あなたは一人ではなく、三人です。あなたが自分であると思っているあなた、他の人々があなたであると思っているあなた、本当のあなたです。他の人々があなたであると思っているものは、その人の単なる想像です。あなたの自己〔真我〕があなたの実体です。自己とは何を意味しているのでしょうか？ 自己は「私」を意味します。この「私」は、万人に属し、一様に内在しています。けれども、この一体性は、エゴという小さな個人的な私「^{アイ}I」に、横棒〔一〕を入れてエゴを消したとき〔十〕にのみ、体験することができます。これが、キリスト教徒に礼拝される十字架の隠れた意味です。すべての人は一つです。だれもあなたと分離しておらず、対立もしていません。この真理をつねに心に銘記しておくべきです。

カルマ〔行為〕から生じ、カルマによって維持されるものはすべて、架空のものであり、束の間のものであります。先に述べたように、皆さんはブラフマンの化身です。自分をブラフマンであると見な

して、初めて真理を悟ることができます。この真理を認識しない限り、皆さんはラーマンナやクリシュナンナといった、両親が付けてくれた名前と自分を同一視するでしょう。両親によって付けられた名前はすべて、身元を確認するためのものです。皆さんは両親が付けた名前を持って生まれてきたのではありません。では、どのような名前を持って生まれてきたのでしょうか？ 皆さんはそれを知りません。生まれたばかりの赤ん坊の両親のところへ行って、「その子に何と名付けたのですか？」と尋ねれば、両親は「この子にはまだ名前を付けていません」と言うかもしれません。世界には何十億もの人々がいます。しかし、だれ一人として、人は本質的に神であるという真理を理解していないようです。人々は、両親が付けた名前によって、自分がだれであるかを特定しています。しかし、自分の真の名前を知りません。自分が持って生まれた名前を知りません。それゆえ、人々は付けられた名前と自分を同一視して、世俗的な人生を送っているのです。人間の真の名前は、生まれながらに持っている名前です。その名前はアートマです。その名前はブラフマンです。ブラフマンとは何を意味しているのでしょうか？ ブラフマンの意味するものは、ただ「あなた」のみです。ブラフマンには誕生も死もありません。この真理を理解して、初めて皆さんは自分の実体を知ることができます。

物体はどのようにして生じるのでしょうか？ 物体は意志の力によって創られます。（ここでスワミは黄金の鎖を物質化なさり、スワミがこれを意志したとおっしゃいました）。この鎖は、私の意志から生じ、意志する前には存在していませんでした。すべては神の意志によって生じます。神はマーヤー〔幻影〕の原因です。全創造物はマーヤーと神が結合したものです。マーヤーがなければ創造はあり得ません。それゆえ、マーヤーはすべての人に影のようにつきまといます。人はマーヤーの影響のもとに人生を送ります。マーヤーは影と同じように私たちから去ることはありません。マーヤーはあらゆる迷妄の原因です。太陽が昇るとき、影はとても長くなっています。太陽が頭上にあるとき、影は足の真下にあります。このように、影は長くなったり短くなったりします。ですから、私たちは影を人生の基盤とするべきではありません。

神がすべての根本原因

愛の化身である皆さん！ もっとも重要なのは愛です。愛は信仰の基盤です。このような愛がどこから生じるのか、だれも知りません。英語で愛は「Love」とつづり、頭文字のLは全宇宙の創造者である Lord（神）を象徴しています。蟻から象にいたるまで、あらゆる生物の源は神です。全生物は神によって創造されました。

神の意志がなければ、一本の草でさえそよぐことはない
この真理を理解しない者は、知性や知識にうぬぼれて自分を見失う
どれほど偉大な者であれ、だれ一人将来自分に何が起こるのか知る者はいない
(テルグ語の詩)

草の葉の起源は何でしょうか？ それは神の意志に他なりません。草の葉は、小さな生物を守るために、神の意志により生じました。すべての生物はブラフマ サンカルパ（神の意志）により生じました。神がいなければ、生物の存在はあり得ません。夏季の間、大地は植物が生えていないむき出しの状態になっています。しかし、降雨があれば、大地から多くの植物が生えてきます。これらの植物はすべて、何によってもたらされたのでしょうか？ 植物は雨によってもたらされました。雨は何によってもたらされたのでしょうか？ 雨は雲によってもたらされました。雲は何によってもたらされたのでしょうか？ 雲は太陽によってもたらされました。太陽は何によってもたらされたのでしょうか？ 太陽は神によってもたらされました。それゆえ、すべての起源はただ神のみにあります。神がいなければ、大気も太陽も雨も存在しないため、植物も存在しません。それゆえ、神を忘れるべきではありません。何を忘れようが、けっして神を忘れてはなりません。神を忘れることはすべてを忘れることです。すべての根本原因は神です。人はこの根本原因を忘れています。基礎がなければ

ば壁はありません。壁がなければ屋根はありません。屋根がなければ家はありません。したがって、基礎がもっとも重要です。基礎の上にのみ柱は立てられ、柱は屋根を支えます。これと同様に、人生の基礎は自信〔真我に対する信仰〕であり、その基礎の上に自己満足〔真我に対する満足〕という壁を作ることができ、その壁は自己犠牲〔真我に対する犠牲、自分の悪い性質を神に捧げること〕という屋根を支えます。そうして初めて私たちは自己実現〔真我を悟ること〕という人生を得ることができます。自己犠牲という屋根がなければ、自己満足という柱は何の役に立つのでしょうか？ しかし、屋根は基礎と壁と柱がなければ建てられません。それゆえ、あなた方は皆、基礎の重要性に気づくべきです。これが基礎的な真理です。けっしてこの基礎的な真理を忘れないようにしなさい。

イエスはすべてを愛した

イエスはヨセフという名前の大工の息子でした。ヨセフは、神にイエスを産むよう選ばれたマリアと結婚しました。聖なる御子を身ごもっていたとき、マリアはヨセフと共に、ローマ皇帝が命じた人口調査〔古代ローマで税額算定のために行われた人口登録調査〕のために、ベツレヘムに行かなければなりませんでした。二人にはベツレヘムまでの移動手段がありませんでした。そのため二人は一匹のロバに乗って移動しました。二人がベツレヘムに到着すると、宿屋の部屋はすべて満室で、滞在する場所がありませんでした。結局二人は、空室はないと言った宿屋の主人の部屋の扉をたたきました。ヨセフが今にも妻が出産しそうであることを説明すると、主人はしぶしぶ二人に馬屋をあてがいました。その夜、マリアは馬屋の片隅で男児を出産しました。ヨセフとマリアは生まれたばかりの赤子のために、^{かいぼおけ}飼葉桶に牧草や木の葉を入れて上から布をかけて、ベッドを作りました。その子はイエスと名付けられました。

イエスは両親の愛に満ちた庇護のもとで成長しました。両親は多くのことを教えようとしていましたが、イエスはそうした世俗的な教えを受け入れませんでした。あるとき、マリアとヨセフが幼子のイエスをエルサレムの市場に連れて行った時のことです。人ごみの中で、イエスは二人とはぐれてしまいました。二人はありとあらゆる所を捜しましたが、イエスは見つかりませんでした。イエスがどこにも見つからず、二人は不安になりました。その間ずっとイエスは神殿の隅に座って、祭司の説教を聞いていました。ついに母マリアが神殿の中でイエスを見つけました。マリアは駆け寄って、愛情深くイエスを抱きしめながら言いました。「坊や、一体どうしていたの？ どこに行っていたの？ お父さんとお母さんは、ずっとおまえを捜していたのですよ」。イエスはマリアに言いました。「お母さん、僕はどこにも行っていません。ずっと神殿の中で祭司様の教えを聞いていたのです」。この世のすべては空想であり、つかの間のものであり、何も真実ではないと、神殿の祭司は言いました。「あなたが唯一の真実です。これは万人にとっての真理です。ですから、あなたは自分の実体を知るべきです」と祭司は説いたのです。イエスはこの教えを心に留めたのでした。

イエスはその教えを熟考しながら、独り山々を遊行しました。そのうちにイエスは海岸にやってきました。そして、大勢の漁夫たちが座っているのを目にしました。そこでイエスはペテロに出会い、「あなたの名前は？」と尋ねました。「私の名前はペテロです」とペテロは答えました。ペテロは一人の老人を指差して、「彼は私の父です」言いました。その老人は漁網を修理していました。こうしてイエスとペテロの親交が芽生えました。イエスはペテロになぜ悲しそうにしているのかと尋ねました。ペテロは、「昨日、漁に出たのですが、魚は一匹も獲れませんでした」と言いました。イエスはペテロにある方角に行き漁をするように言い、そこでたくさんの魚が獲れると断言しました。イエスはみずから舟に乗ってペテロと共に漁に出ました。ペテロたちはイエスによって示された方角に進み、たくさんの魚を獲りました。漁夫たちは皆、イエスが偉大な人物で、すべてを知っていることを認識しました。そして、イエスを師と仰ぐようになりました。

イエスは年齢においては若輩でしたが、智慧においてははるかに老熟でした。そのため、漁夫たちは皆、イエスの信奉者となりました。イエスは漁夫と共に暮らし、食べ物を分かち合いました。

ある日、イエスは一個の小さなパンを分けて全員に与えましたが、[不思議なことに] 漁夫たちはお腹がいっぱいになるまでパンを食べることができました。さらに、このパンには類まれな甘味がありました。その日から、漁夫たち皆、イエスを信じるようになり、イエスの教えに従い始めました。イエスは普通の人間に見えましたが、偉大な力に恵まれていました。漁夫のだれもがイエスの教えに従うようになってからというもの、ますます多くの魚が獲れるようになりました。それによって、漁夫たちは豊かになり、暮らし向きがよくなりました。漁夫たちの繁栄を見て、他の人々もイエスに従うことを考えるようになりました。イエスの評判が高まると、嫉妬してイエスに敵対しはじめた人々も現れました。友人がいるならば敵もまたいるものです。敵対者たちはイエスが公衆を騙していると言って訴えました。この申し立てにより、イエスの逮捕が命じられました。イエスは裁判所で、どのようにして力を得たのかと尋ねられました。イエスは自分の力はすべて神の意志であると答えました。非難が浴びせられていた時、イエスは議論したくなかったために沈黙したままでした。祭司たちのこの虚偽の告発により、イエスは死刑を宣告されました。統治者は心優しい人で、このように気高い人が無実の罪で磔はりつけにされることを嘆きました。磔の時、母マリアはイエスのそばに来て泣き始めました。「なぜ泣いているのですか、お母さん？ この肉体は一時的なものです。この肉体を彼らの望むようにさせましょう。お母さんは彼らが私を殺そうとしていると思っています。私に死はありません。だれも私を殺すことはできません」と言って、イエスはマリアを慰めました。マリアは尋ねました。「あなたは私の肉体の息子ではないのですか？」。イエスは答えました。「もちろんです！ 肉体レベルでは、私はあなたの息子で、親子の関係があります。けれども、『私は私』に他なりません。すべての人は私の子です。すべての人は神性の化身です」。

イエスは普通の人間ではありませんでした。イエスは神聖でした。けれども、中にはイエスを信じていなかった人たちもいました。今日こんにちでさえ状況は同じようなものにすぎません。信仰を持っている人もいれば、信仰を持っていない人もいます。褒め称える人もいれば、批判する人もいます。しかしながら、各人はみずからの信仰によって守られています。もし、あなたが石を神であると見なすなら、石はそのようになるでしょう。当時、イエスは多くの試練にさらされていました。イエスはあらゆる貧民を守り、食物と住まいを与えました。ある日、イエスが砂漠を横断していた時、一人の女性が近づいてきて食べ物を求めました。イエスは即座に「これをお食べなさい」と言って食物を与えました。このように、だれが何を要求しても、イエスは何であれ求められたものを与えました。そうした物はすべてどこから得ているのかと聞かれた時、イエスは、みずからの意志の力と神の恩寵により、すべてがもたらされると答えました。この世に意志の力より大きな力はありません。神によって創られたものはすべて、神の化身です。この真理を理解する者は、神そのものになるでしょう。

ブランマ (ハ) ヴィッド ブランマ (ハ) イヴァ バヴァティ
(ブラフマンを知る者は、まさしくブラフマンとなる)

信仰と愛によって何でも成就することができる

すべては神の意志によって起こります。それゆえ、神の意志を知ることは人間の義務です。神の意志を信じる人は守られます。信仰を持たない人は人生を台無しにします。万事において信じることは不可欠です。今の人々は信仰という両眼を失い、盲人のような行動をしています。人は信仰をみずからの両眼のごとく守るべきです。全創造物を維持している根本的な原因は、ただ信仰のみです。人は信仰と愛によって何でも成就することができます。信仰と愛によって得ることのできないものは何もありません。

それゆえ、何よりもまず信仰を持つべきです。信仰と同様に、愛はまさしく必要不可欠なものです。信仰と愛を持って、初めて私たちはありとあらゆる方法で向上することができます。信仰は人間にとってとても重要です。信仰があるところには愛があります。信仰と愛の両方があれば、すべ

てを得ることができます。篤い^{あつ}信仰心を持つべきです。信仰がなければ人生は無価値です。篤い信仰心があればすべてが可能で、自分の身体を変えることさえできます。信仰は人間に測り知れない可能性をもたらします。多くの信者は、信仰心はあっても愛に欠けています。愛がなければ信仰はほとんど役に立ちません。愛と信仰は電流のマイナスとプラスのようなものです。したがって、何かを成し遂げるには愛と信仰の両方が必要不可欠です。

ですから、学生の皆さん！ 何よりもまず、信仰を育むようにしなさい。信仰がなければ生命はありません。信仰それ自体が皆さんの自己〔真我〕です。自己がなければ、だれにも何の助けを施すこともできません。ですから、信仰そのものが助けです。もし信仰がありさえすれば、何でも成し遂げることができます。信仰を持ってイエスを崇拝した人々は、すべての面で恩恵を受けました。人々の中には、自分の願望が叶えられたときだけ信仰を育てる者もいます。そして、願望が叶えられなかったときには信仰を失うのです。願いが叶おうが叶うまいが、篤い信仰心を持つべきです。しっかりと確実に信仰を保持すべきです。もし堅く信仰を持ち続けたなら、どこまでも向上することができます。信仰があれば、盲人であっても目が見えるようになり、啞者であっても話せるようになります。それゆえ、疑いに余地を与えてはなりません。

イエスは多くの試練と苦難に直面しなければなりませんでした。それは今も同じです。しかし、皆さんは信仰によってあらゆる難題に立ち向かうことができます。人々の中にはイエスを普通の人間であると考えていた者もいました。今でも、人々の中には私を普通の人間であると考えている者もいます。これは大きな間違いです。これほど多くのことが、どうやって常人に成し遂げられるのでしょうか？ 肉眼で見ればそのように見えるかもしれませんが、間違いは私ではなく、皆さんの視力にあります。皆さんの目は病気にかかっています。ですから、視力を矯正すべきです。皆さんが健康であれば、私もまた健康です。私の幸福は、皆さんの幸福にあります。あなた方は皆、私と異なる存在ではありません。皆さんは、ただ私の中のみ存在しています。(大喝采)。これを根本的真理であると理解しなさい。私は、すべての仕事を、皆さんの手を通じて行っています。なぜなら、私には仕事をするための道具が必要だからです。そのため私は、皆さんにプラグニャーナ〔至高の叡智〕と、ヴィグニャーナ〔高次の叡智〕、スグニャーナ〔正しい知識〕を伝えることで、皆さんを私の価値ある道具にしている最中なのです。ですから、堅固な信仰を持って人生を歩みなさい。皆さんは、この世のあらゆる発展は教育の成果であると考えています。これは、まったく事実ではありません。世界には学の高い人が大勢います。けれども、学の高い人たちによって世界がどのような恩恵を受けているのでしょうか？ 実際には、学の高い人たちは世界に貢献するというよりも、むしろ害を及ぼしています。たとえ高い教育を受けていなくても、強い靈的基盤があれば、皆さんは守られるでしょう。一方、あらゆるものを所有していても、靈性に欠けていれば、まったく何の役にも立ちません。それゆえ、自分の心^{ハート}を神への信愛で満たしなさい。「私は肉体ではない、肉体は私が身に着けている衣服にすぎない。すべてを行っているのは内なる神である」と、つねに思っていなさい。神は、皆さんの内に、皆さんと共に、皆さんの周りに、皆さんの上に、皆さんの下にいます。(大喝采)。それゆえ、神性原理への完全な信仰を持ちなさい。これによって、皆さんは何でも成し遂げることができます。

イエスには偉大な力が授けられていた

学生の皆さん！ 皆さんは熟れたおいしい果物のようです。しかし、果物には甘味がなくてはなりません。甘い果汁がなければ、それはまったく果物ではありません。ですから、あなた方は皆、愛、愛、愛という甘い果汁を含んでいるべきです！ 愛という甘い果汁がなければ人生は無意味です。人々は、甘い果汁を含んでいない果物は投げ捨てさせます。それゆえ、自分を愛という甘い果汁で満たしなさい。皆さんはどんな姿の神を崇めても、どんな神の御名を唱えてもかまいませんが、何よりもまず、信仰を持たなければなりません。神は多くの名前を持っています。名前は多くとも、

神は一つ。宝飾品は多くとも、^{きん}金は一つ。金がなければどのような装飾品も作れません。ですから、金、すなわち神を、捨てるべきではありません。

信仰をもっとも重要なものと見なさない。自分が望んだ結果を得られようが得られまいが、しっかりと信仰を持ち続けるべきです。信仰と共に愛も培いなさい。私は皆さんであり、皆さんは私です。(大喝采)。この世に多様性は存在しません。一元性があるのみです。

エーコーハム バフスヤム
(一なるものが多になろうと意志した)

一なる神が多くの姿で現れます。この一元性を理解する者のみが、完全な至福を獲得することができます。学生の一人ひとりが皆、^{ハート}心を信仰で満たすべきです。皆さんは、この世的な教育を習得するためだけにここにやって来たわけではありません。皆さんはスワミの教えを学ぶためにここに来ました。もし絶対的な信仰を備えてこれらの教えに従うなら、あらゆる努力が実を結ぶでしょう。皆さんはスワミの教えを愛すべきです。スワミの教えを崇敬し、スワミの教えに従うべきです。

(バガヴァンはここで「ハリ バジャナ ピナ」のバジャンをお歌いになり、その後、御講話をお続けになりました)。

バジャンをすることによって、私たちは平安と幸福を得ることができます。ですから、つねに心の中で神の御名を憶念しているべきです。皆さんは、ジャパ〔神の御名やマントラを繰り返し唱えること〕や、ディヤーナ〔瞑想〕や、ヨーガ〔神との合一のための行〕などを行っているかもしれませんが、していないかもしれませんが、ナーマスマラナ〔神の御名の憶持^{スマラナ}〕は絶対に行わなければなりません。これより容易な道はありません。子どもであろうと、大人であろうと、老人であろうと、ナーマスマラナはだれでも行うことができます。つねに神の御名を唱え続けていなさい。学位を取得することに何の間違いもありませんが、バジャンは絶対に必要です。イエスを普通の人間だと考えてはなりません。イエスには偉大な力が授けられていました。イエスはあらゆるテストに及第しました。けっしてだれのことも普通の人間だと考えてはなりません。人の内に神を見なさい。「彼は男で、彼女は女」などと言って、違いに注意を払ってはなりません。女性も男性も互いに異なってはいません。すべては一つ、万人に等しくありなさい。そうして初めて、真の平安を得ることができます。クリシュナ神は「バガヴァッド・ギーター」の中で、

ママイヴァームショー ジーヴァローケー ジーヴァブータッ サナータナハ
(万物に内在する永遠なるアートマは、私の存在の一部である)

[15章7節]

と言いました。すべては一つです。あなた方は皆、私の神性の一側面です。したがって、私と皆さんは一つであって、互いに分離してはいないのです。私は皆さんの内に、皆さんと共に、皆さんの上に、皆さんの下に、皆さんの周りにいます。この感覚を心に銘記し、幸福な人生を送りなさい。私が述べたことを理解しましたか？ 自分の部屋に帰った時、スワミはどこかよそにいて、自分はスワミと離れているなどと考えてはなりません。「スワミは私と共に、私の内に、私の上に、私の下にいます」と、いつも思っていなさい。すべては一つです。(大喝采)。

*この年のクリスマスの御講話が26日に行われたのは、クリスマス当日の信者たちの行事が長かったために、スワミが急遽、御講話を翌26日に延期なされたためです。

出典：Sanathana Sarathi 2008年1月号

翻訳：サティヤ・サイ出版協会